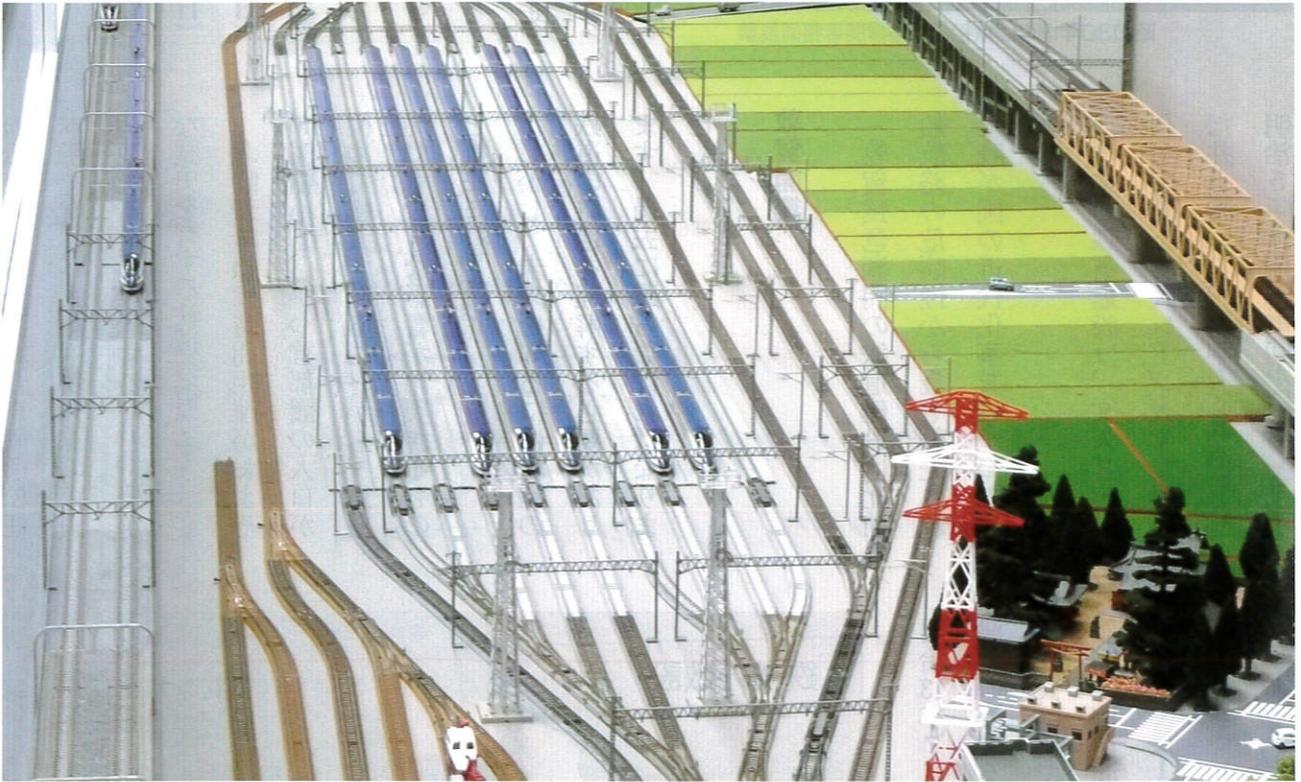


白山市文化施設館報

白山ミュージアム



白山市立博物館 企画展
 かがやきの北陸へ

—北陸新幹線と北陸本線—
 を開催

平成27年2月1日(日)から9月27日(日)まで、白山市合併一〇周年と北陸新幹線金沢開業を記念して、企画展「かがやきの北陸へ—北陸新幹線と北陸本線—」を開催しています。白山市は、旧国鉄松任工場以来の伝統ある金沢総合車両所松任本所を有し、また新幹線の車両基地が新たに設置されるなど、豊かな歴史を有する鉄道の街です。白山市立博物館では、松任博物館時代の平成17年と18年に鉄道展を開催し、また常設の鉄道模型運行を行っており、多くの鉄道ファンが訪れています。本展では、資料とジオラマ模型などで北陸新幹線開業までの道のりと北陸本線の歴史をたどります。

この機会にぜひご覧ください。

(関連記事 2〜3ページ)

contents

■ 白山市立博物館 企画展 かがやきの北陸へ —北陸新幹線と北陸本線—	1
■ 白山市立博物館 平成26年度企画展	4
■ 白山市立博物館 平成26年度イベント	9
■ 平成27年度 文化施設行事予定表等	12



昭和30年頃の国鉄松任工場機関車整備風景

企画展 北陸新幹線と北陸線

平成27年2月1日(日)

～9月27日(日)

白山市立博物館では、北陸新幹線金沢開業と白山市合併10周年を記念して、企画展を開催しています。

白山市は旧国鉄松任工場以来

の伝統のある金沢総合車両所松任本所を有し、また、新幹線の車両基地を新たに設置するなど、豊かな歴史を有する鉄道の街です。

北陸新幹線は時間距離がおよそ40%縮小し、かつ首都圏の人口が極めて膨大であることから、長期的にも大きな影響が出現するものと推定されます。

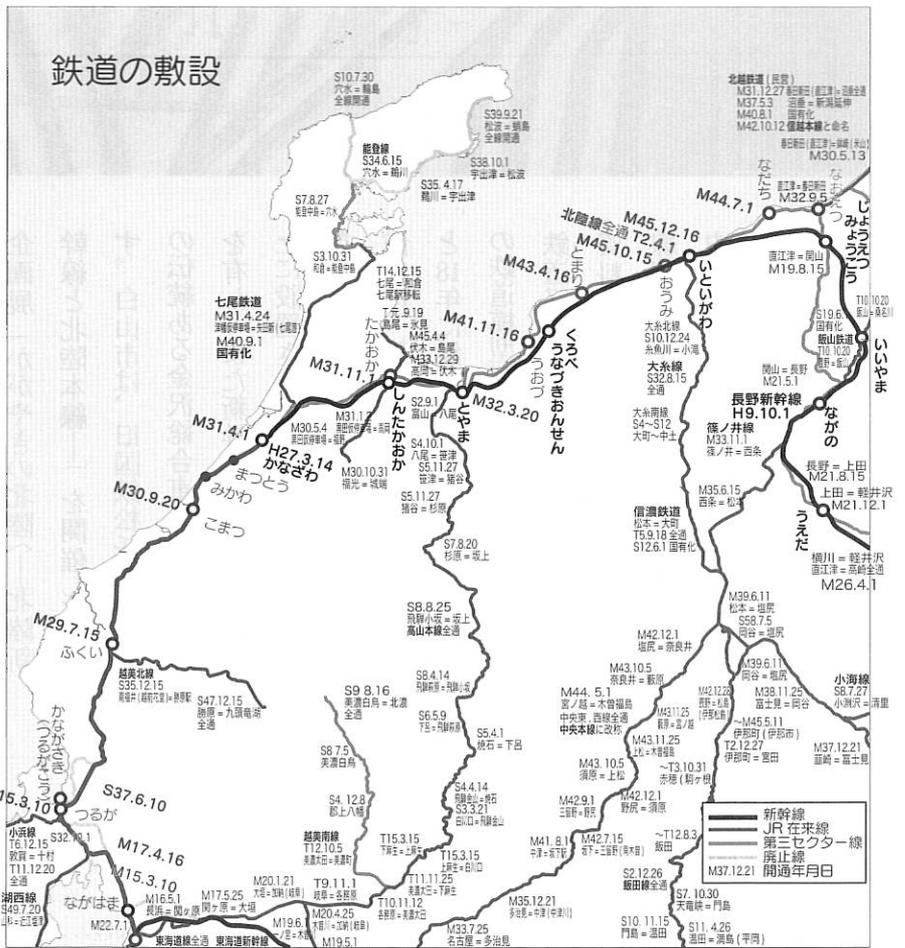
しかし、未来を知るには北陸の鉄道の特性を理解する必要があります。過去に遡らなければなりません。

敦賀開業

敦賀琵琶湖間の鉄道建設は北前船航路の危険性から最も優先された我が国の近代化事業の一つでした。

日本の鉄道建設は、文久3年長州を脱藩してロンドン大学で学んだ井上勝によって強力に進められ、明治5年新橋横浜間が開業します。

鉄道の敷設



明治13年7月神戸から大津（浜大津）に達すると、琵琶湖を汽船により長浜まで通じ、ついで長浜敦賀間の柳ヶ瀬トンネルが起工されます。

全長1.352 kmは当時は空前の長さでした。明治15年3月10日、トンネル区間を除き、長浜金ヶ

北陸本線の全通

崎（敦賀港）間が開業、明治17年4月16日敦賀まで開通します。

敦賀以北の北陸線の延伸は、日清戦争後になります。官設鉄道として明治29年7月に福井まで延伸、

清戦後になります。官設鉄道として明治29年7月に福井まで延伸、

明治31年4月1日に金沢が開業しています。松任駅、美川駅もその時です。

明治32年3月富山まで開業しますが、日露戦争を挟んで、明治41年11月魚津、明治45年10月青海に到達、一方、信越線支線が直江津から伸張、明治45年12月糸魚川に達し、大正2年4月1日、米原直江津間が全通して、北陸本線と命名されています。

北陸地方の難所

北陸本線には、柳ヶ瀬越え、山中越え、俱利伽羅越え、親不知、能生名立などの難所が並び、さらに信越本線でも、関山越え、横川軽井沢間区間などの難所が続き、補助機関車の接続、トンネルの排気設備、部分電化、スイッチバック、アプト式など様々な鉄道設備が導入されました。しかし、昭和35年でも、金沢から信越線回り上野行

き急行白山が上野まで12時間28分、米原回り急行能登が東京まで12時間25分、大阪へも夜行列車で行くのが普通でした。

すでに昭和3年柳ヶ瀬トンネルで機関士5名が窒息死、北陸の過酷な山越えの解消は悲願となりました。近江塩津新疋田間の深坂トンネル(5.17km)は昭和13年着工、大戦を挟んで線路を通じたのは昭和32年でした。同年に北陸トンネル(13.87km在来線国内2位)が着工、工事は国鉄の総力を挙げて最新工法を導入して行われ、昭和37年6月に開通しています。

また、地すべり被害などで事故が多発した親不知・能生付近の改良のため、頸城トンネル(11.353km在来線国内4位)などの長大トンネルが掘削されていきます。



平成26年4月の白山車両基地W7搬入風景

北陸新幹線の建設

昭和40年9月26日、金沢市での一日内閣において富山県の岩川毅氏は、立山連峰を貫通し富山、金沢を経由して大阪に至る「北陸新幹線」の建設を求めました。これが全国に新幹線網を建設するきっかけとなりました。

昭和45年全国新幹線鉄道整備法が成立、昭和47年には「北陸新幹線」の基本計画が決定されています。

ところが、巨額の国鉄赤字と、オイルショックが重なって、未着工路線の建設が凍結、昭和62年に国鉄分割民営化が行われ、巨額の長期債務が新幹線保有機構などによって承継されました。

地元からの要望に、昭和63年、政府は財源スキームを二度作成し、スーパー特急方式と地元負担、さらに、平行在来線の経営分離が決定するのです。

北陸(長野)新幹線は長野オリピック開催決定によりフル規格となり、平成9年10月1日に長野まで開通しています。

平成10年、長野上越間が着工。うち最長の飯山トンネル(22.3km)は難工事となり、平成19年末にようやく貫通しています。ここから工事は急速に進展し、平成27年3月14日の金沢開業に至っています。

企画展

手取川発電物語展

平成26年6月14日(土)

～8月31日(日)

白山市立博物館では、手取川水物語展の第三回目として、水力発電について写真や地図・パネルを中心に紹介、また大日川ダム関連資料などを展示しました。

その概要を紹介します。

手取川の恵みと水力発電

手取川は、白山山頂を源流として、総延長72km、我国の一級河川で26番目の流量を有し、その下流部に、美しい大型扇状地を形成しています。

上流部は日本有数の豪雪地帯で、面積当たりの水量も国内第二位ですが、同第三位の急流河川であり、その流域に24箇所水力発電所が建設され、優れた電源地帯を形成

しています。

手取川扇状地と水車の利用

江戸時代から明治時代にかけて、水量の多い手取川七ヶ用水を利用して、我が国有数の水車分布地帯となっていました。そこでは粉引き、油絞りなどが行われ、明治に入っては織物産業の動力となつて行きました。

鉾山開発と自主電源の開発

県内での水力発電は、他地域に比べて遅れ、鉾山開発で先行しました。明治32年、阿手鉾山(鳥越



阿手発電所

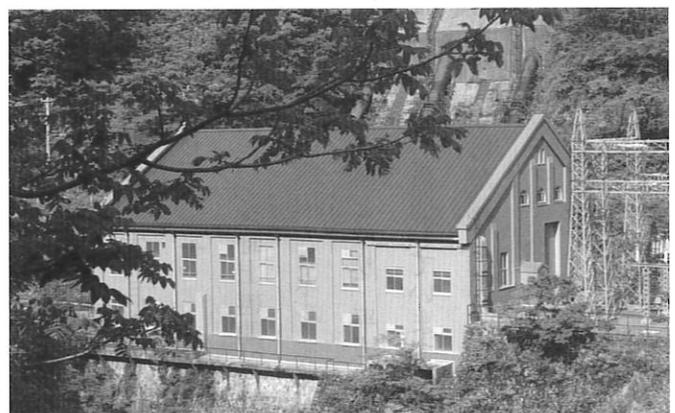
に追いつけず、手取川水系の電源開発に着手、明治44年4月に福岡(第一)発電所が運転開始、さらに福岡第二、市原、吉野(第二)を設置しています。その後、金沢市営となります。

スキー場付近)は大日川の上流から2kmの導水路を設置して、翌年県内で初めて65kwの発電を行い、鉾山の巻き上げ機や排水ポンプなどに使用しています。

また、明治41年、遊泉寺銅山(竹内鉱業)は、大日川水系の神子清水で、放棄されていた農業用水を利用した水力発電所を設置しています。

金沢電気瓦斯会社の手取川開発

治33年犀川の寺津用水で、金沢電灯会社の上辰巳(辰巳)発電所が竣工しています。しかし電力需



吉野谷発電所

電力戦と統合の時代

大正中期以降、絹織物の価格が暴落して北陸の繊維産業は壊滅的な打撃を受けます。一方、大都市では重化学工業の発展を背景に、五大電力会社がしのぎを削り、北陸地方での大規模な電源開発と長距離高電圧送電線の建設競争を繰り広げます。電力戦と呼ばれた激烈な競争です。



大日川ダム建設工事風景

総合開発の時代

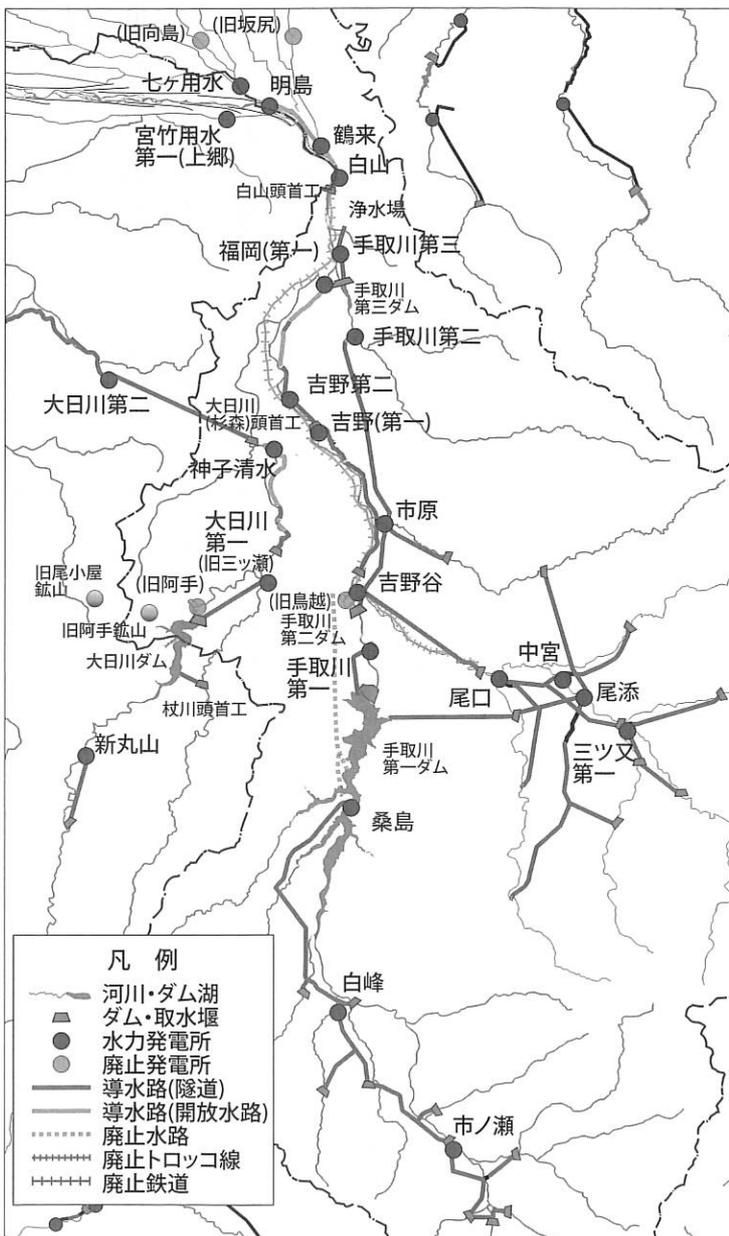
大日川ダム建設計画は、昭和25年農林省によって着手されています。

電力戦の主役のひとり福沢桃介は、福沢諭吉の養子で海外留学を体験し、明治39年木曾川の水利権を得ると次々と巨大水力発電所を建設、さらに、手取川水系に進出して、大正15年吉野谷発電所、昭和3年鳥越発電所を建設しました。その資材の運搬のため、中宮へのトロッコ線と金名線が敷設されるときともに、用水整備により、手取谷の水田が開かれました。

有効貯水量1億9千万³m、国内有数のロックフィルダムです。

次いで、石川県は本流の利用を検討し、昭和49年三つのダムと三ヶ所の発電所建設を含む共同事業が着工します。手取川第一ダムは

す。関連して石川県は加賀地区総合開発計画を立案、加賀三湖地区の干拓・灌漑事業、手取川扇状地の幹線水路の改良、発電事業含む大規模な開発計画へと発展、昭和43年、17年かけて竣工しています。



白山市内の発電所

扇状地の発電所

昭和9年の大洪水で、七ヶ用水大水門は河床低下により取水不能となります。このため、手取川水力電気から申請のあった白山頭首工（現在大規模改良中）を上流に設置、昭和12年に白山発電所、鶴来発電所が稼働しています。一方、織物生産の水車による自

家発電施設を改良した向島発電所が大正4年に配電を開始昭和9年廃止、同年には坂尻発電所が稼働（同42年廃止）しています。この他、宮竹用水第一（上郷）、七ヶ用水発電所が稼働しています。このように、手取川は私たちに多くの恵沢を与えています。

企画展 金子鶴村を

めぐる人々
—加賀の文人たち—

平成26年9月20日(土)

～11月30日(日)

白山市鶴来出身の儒者 金子鶴村とその交友関係を紹介する展覧会を開催いたしました。

金子鶴村(1759～1840)は近世後期に活躍した儒学者・文人です。今回、旧鶴来町立博物館での特別展「金子鶴村展」以来、約30年ぶりに金子鶴村をテーマとした展示会となりました。

鶴村は宝暦九年(1759)鶴来に生まれました。(生年には諸説あります。)父清右衛門、兄市太郎が相次いで亡くなったことから18歳で金子家を継ぐことになりました。京都に遊学するまでの鶴来在住時代についてはあまり知られていません。京都遊学時までの交流

人物として東陵文亀、藤岡屋南有、

皆川淇園、山田丹丘等を紹介しま

した。東陵文亀は鶴村が鶴来在住

時代に画を師事した人物とされ、

天明7年(1787)3月、東陵

文亀に宛てた起請文によると写真

的な彩色花鳥画に特徴がある南蘋

派の技法を文亀から習得しました。

しかし、これまで文亀の詳細は不

明でした。今回、南蘋派の画風で

はありません。現在、確認できる

文亀、唯一の作品として「文亀画

墨竹図」が発見され、はじめて

紹介することになりました。

鶴村は寛政2年(1790)4月、

京都の儒者 皆川淇園

に入門します。このと

き同郷の桜井子錦も入

門しています。両名の

推薦者は小松町医者

梁田養元でした。従来、

鶴村は本吉(白山市美

川地区)の明翫屋の援

助で京都に遊学したとされてきま

した。寛政2年(1790)から

寛政4年(1792)までに発信

されたと推定される書簡「鶴村藤

岡屋南有宛 書翰」には鶴村京都勤

学に対し従来の本吉明翫屋支援に

加え、鶴来町人の資金援助等の関

わりや皆川淇園のもとの勤学の

一端が伝えられています。南有公

とは鶴来社中のひとり藤岡屋藤右

衛門と考えられます。

鶴村の画は南北二宗を合わせた

精緻な画風で知られ、南蘋派の技

法も習得し、多くの書画作品を残

しています。また多くの模写作品

も作成しています。「羅漢図」(金

沢市 希翁院 蔵)は天保9年

(1838)、80歳の作で鶴村作品

中、最大の大きさを誇ります。「禪

月大師図摹」とあり、禅月様の羅

漢図を模写したとするものです。

このほか『加能画人集成』に掲

載の代表作「孫武士子像」(金沢

市立玉川図書館 蔵)、中国南宋末、

水墨龍図の名士として名高い画家

陳容(号 所翁)の作品の模写「双

龍之図」等も展示しました。

鶴村の所蔵・愛用品等では鶴村

使用と伝えられる赤間関硯や日本

人として、はじめて世界一周を成

し遂げた津太夫ほか3名の漂流記

録『環海異聞』(白山市立博物館蔵)

は鶴村が写本したものです。

鶴村の著書 白山市指定文化

財「白山遊覧図記」(白山市立博

物館 蔵)文政12年(1829)

は、白山の地理、名勝、史跡、産

物等を漢文体で記したもので、巻



金子鶴村 羅漢図 希翁院蔵

之十まであり、巻之八以降は、図のみとなっています。文政3年(1820)、「白山志」として作成したものを改訂し、増島蘭園(1769〜1839)に序文を書いてもらい、2冊にまとめました。「白山遊覧図記受取状」(文政13年(1830) 白山市立博物館蔵)は、金子鶴村の念願であった「白山遊覧図記」の幕府の昌平坂学問所への献上について、江戸にあった二男 章蔵が願い出、許されたことを林大学頭・林金将監から増島金之丞に伝えた書状です。章蔵は増島金之丞の弟子でした。



金子鶴村 飲中八仙図

の鶴村直筆史料として貴重なものです。小松集義堂旧蔵の周公像を模写した「聖賢像」(個人蔵)は模写した元作品が判明する数少ない作例で、模写技術の高さを感じさせます。また「飲中八仙図」(個人蔵)は色や塗り方が補注されており、模写の課程を見ることができま

す。小松で約10年を過ごした鶴村は、文化元年(1804)年から加賀藩の重臣 今枝家に仕えることとなりました。

今枝家につかえてから4年目にあたる文化4年(1807)7月から天保9年(1838)8月まで31年にわたる鶴村の日記、白山市指定文化財「鶴日記」は、日々の来訪者、出来事等の記録、天候等のほか、災害、米相場等が事細かに記録される貴重な史料です。また小松や金沢などの文人たちとも交流しており、鶴来、金沢、小松等で文人サロンを展開していたとされています。この中から、榊原拙処、山田淡菊、碓井梅嶺、村山翠屋を取り上げました。榊原拙処(1780〜1875)は、上田清右衛門4男として生まれ、榊原武兵衛の養嗣子となった。安政6年(1863)から文久3年(1883)まで小松集義堂の教授も務めました。金子鶴村とは、今枝家中において、長井葵園、鈴木柳崖、岡田揚齋等とともに深く交流していたとされます。

村山翠屋(1818〜1890)は、鶴来出身の画家で、子どもの頃、鶴村に漢字を学んだといわれ、明治14年(1881)第2回内国博覧会などに出品して褒状を得ました。特に花鳥図の作品が多く残されています。今回展示した花鳥図額は、湊町 熊田屋吉治郎が海上安全祈願に奉納したのですが、翠屋作品の図額は珍しいものです。山田淡菊(1788〜1856)は、明翫屋喜兵衛のことで、別号は九如山人といいました。明翫屋は代々、本吉町の町年寄を勤める家で酒造業を営んでいました。淡菊は画を浦上春琴、書は村瀬栲亭に師事しました。このほか天保13年(1842)、舟岡山に息子達(角屋清兵衛・金子章蔵)が建てた鶴村の墓碑「孔子章蔵」が建てた鶴村の墓碑「孔子先生墓」の拓本や角屋清兵衛日記(守株日記)、金子章蔵「直海溪遊記」等も展示しました。

企画展

くらしと道具の

うつりかわり

―大正・昭和・平成をしらべる―

平成26年12月20日(土)

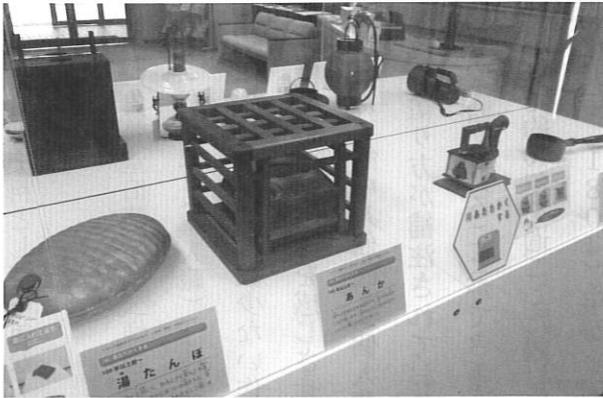
～27年2月1日(日)

小学校3年生を対象とした社会科学習「むかしのくらし」の学習支援のための展示を今年も開催しました。今年度は2月からの企画展準備のため休憩ロビーを中心に展示し、昨年度より点数は少なくなりましたが、厳選して展示をしました。

小学校の学習では、「おとうさん・おかあさんが子どもだったころ」、「おじいさん・おばあさんが子どもだったころ」、50年前、100年前という時間軸で構成して調べる流れになっており、これにあわせて、説明も「50年以上前から」、「100年以上前から」等としました。

展示品は、用途ごとに(1)あ

かり・(2)音をきく・(3)洗濯・(4)暖かくする・(5)すずしくする・(6)計算する・(7)料理する・のテーマにわけ、「(1)あかり」では、1. 部屋を照らす「あかり」として、①行灯、②燭台、③石油ランプ、④白熱電球・蛍光灯を2移動するときを使う「あかり」として①提灯、②懐中電灯を展示し油・ロウソク等を使って明かりをとった頃から電気へ移っていく過程を感じ取ってもらいました。



休憩ロビーでの道具の展示風

ロウソクは現在も使用されていますが、行灯のあかりは現代ではほとんど使用されることがなく、「おじいさん・おばあさん世代」でも使用した経験がほとんどないため実感しづらいものとおもわれます。そこで、小学校の授業での見学时には、①「行灯」(灯明皿に菜種油を入れて灯心に明かりを灯す。)、②石油ランプ(灯油を燃やして明かりを採る。)、③LED電球(電気で明かりをつける。)にそれぞれ点灯して、明るさの違いや使い方を説明して体験してもらっています。

「(2)音をきく」では、①テープレコーダ、②カセットテーププレイヤーを展示しました。いまの小学生は磁気テープに録音する器具を使用することは、ほとんどないと思われるが、「おじいさん・おばあさん世代」では、カセットテープを愛用されている方も多い



「洗濯」の展示風景

のではないのでしょうか。

「(3)洗濯」では、①たらい、②洗濯板、③張り板、④火のし、④炭火アイロンを展示しました。「たらい」と「洗濯板」は、ソフトマネキンで、洗濯の様子を再現し、張り板に布をはりつけて、使用した様子がわかるよう工夫しました。「(4)暖かくする」では「あんか」と湯たんぽ。「(5)すずしくする」では扇子(6)計算する」では、「そろばん」と「手回し計算機」、「(7)料理する」では、「ガスコンロ」を

展示しました。展示スペースが充分でなかったため道具のうつりかわりを比べられるまでの展示物は並べられませんでしたが代表的なものも展示しました。また学校からの要望が多かった氷冷蔵庫も展示しました。これまでも要望が多かった昔の遊び体験のコーナーをつくり、今回、はじめて「剣玉・「お手玉」・「おはじき」を体験してもらいました。

学校の授業での見学時には、道具の解説は、全体対してプロジェクトでまとめて行った後、班別に分けて、見学してもらい、自由に調べる時間を作るようにしています。小学生だけでなく一般の方も見学してもらえよう例年、企画展として実施しています。

小学校で授業時だけでなく体験等が実施できるように工夫し、より理解しやすい展示にしていきたいと思えます。

白山市立博物館 イベント行事
懐かしのレコード演奏会

平成26年5月3日(土)

4日(日)

「熱狂の日」音楽祭2014 in 白山の協賛行事として「真空管アンプで聴く 懐かしのレコード鑑賞会」を開催いたしました。

レコードコンサートは好評を得ており年2回程度実施しています。

金沢工業大学ポピュラーミュージックコレクションと白山市立博物館友の会「博遊会」に協力をいただき、初日(3日)は『クラシックの名盤と題し、モーツアルト・ブラームス・ドヴォルザーク等を鑑賞しました。

二回目(4日)は「鉄道の歌と鉄道文学短編朗読」として、鉄道に関係する歌謡曲等を鑑賞し、西田徳子さんによる鉄道もモチーフにした文学作品の朗読もありました。

ナイト・ミュージアム

平成26年度7月25日(金)

ナイトミュージアムを開催しました。レコード演奏会に加え、今年のはじめて「夜の展示室体験 一日限りの暗がり展示」と題して、展示室の照明を消して、懐中電灯の明かりで見学してもらいました。暗がりで見学する展示物はどのようなうつつたでしょうか。

歴史フォーラム
「前田利長と松任城」

平成26年度6月29日(日)

加賀百万石の礎を築き、豊臣政権において五大老を務めた前田利長。加賀百万石の範囲で、利長が、最初に領地としたのは、天正11年、松任四万石でした。松任城を拠点

に活動したのでしようが、白山市ではあまり知られていません。そこで、今年、前田利長没後四〇〇年を記念して、「前田利長と松任城」と題して歴史フォーラムを開催しました。

まず富山高等専門学校教授 瀬戸薫さんに「前田利長の一生」と題して基調講演をいただき、引き続き「大名・利長の足跡をさぐる」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッション

コーディネーターは当館博物館協議会の会長でもある金沢学院大学文学部特任教授 東四柳史明さんにお願ひし、パネリストには、基調講演者の瀬戸薫さんに加え、金沢学院大学文学部歴史文化学科長 見瀬和雄さん、高岡市教育委員会 田上和彦さん、白山市教育委員会の木田清さんが務めました。

見瀬さんは「利長の法度支配」。田上さんは「前田利長と高岡城―高岡城跡詳細調査の成果から―」を、木田さんには「松任城関連の発掘調査成果」について解説いただきました。

夏休み統一工作教室

平成26年度8月7日(木)

恒例の夏休み工作教室を開催しました。3年生以上の小学生を対象とした教室です。

白山市まちの先生 松田哲章先生を講師に工作にとりくみました。木で「てんとう虫」と竹「バッタ」をつくりました。



夏休み工作教室講師の松田さん

伝統工芸教室

―紙漉き体験―

平成26年度10月18日(土)

伝統工芸教室は、紙漉き体験です。白山ろくでは、かつて相漉紙や市原紙などが生産されていました。これにちなみ和紙の製作方法を学びました。

講師は吉野在住の和紙造形作家

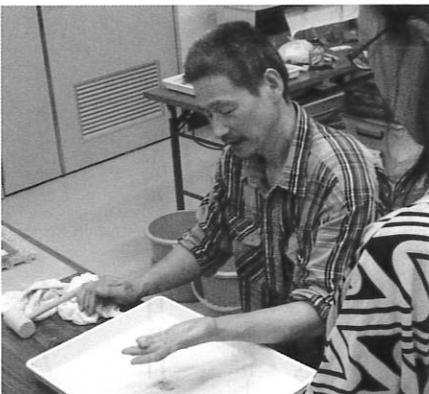
山浦貞雄さんです。

紙漉き体験といえば、紙の原料が入った水槽から木枠で紙を漉く体験を思い出されるのではないのでしょうか。

今回は原料の楮の原木から皮を剥がすところからの体験です。

皮を剥がした後は皮を叩いて繊維を分解し、水とネリを混ぜて木枠に流し込んで葉書のもとを作りました。

葉書の上に絵や文字などがかけられた紙を置き、後日、講師の先生に、漉き入れの技法で仕上げてくださいました。



紙すき体験講師の山浦さん

講座 加賀藩の文芸 ―金子鶴村をめぐる人々―

平成26年10月12日(日)・26日(日)

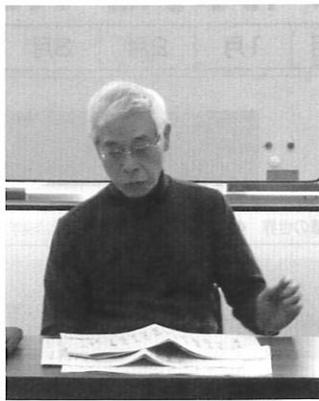
11月9日(日)・23日(日)

企画展「金子鶴村をめぐる人々―加賀の文人たち―」の連携企画として4回にわたり講座を開催しました。

第1回は「金子鶴村をめぐる人々―加賀の文人たち―」と題し、石川県立歴史博物館 学芸主幹 北春千代さんに企画展で展示中の金子鶴村の作品を中心に、美術史的な立場から解説していただきました。

第2回「金子鶴村の生涯と『鶴村日記』」と第3回「金子鶴村と文芸サロン」は、加能地域史研究会 委員 池田仁子さんに講演していただきました。

第4回は「今に伝える集義のころ」と題し、元小松市立芦城小



古文書講座 中級 講師の真山さん

学校長 高島雅展さんに芦城小学校の前身で金子鶴村が教授を務めた集義堂をテーマとした郷土学習の取り組み等を紹介していただきました。

古文書講座

平成27年

(初級) 1月10日(土)・1月24日(土)
2月7日(土)

(中級) 2月21日(土)・3月7日(土)

はじめて、古文書・くずし字に取り組む方を対象とした初級と、古文書に取り組んだことがある方を対象とした中級の2コースの講座を開催しました。

刀の手入れ教室

平成27年度 3月14日(土)

初級は当館学芸員が担当し、中級は例年どおり松任郷土研究会の真山武志さんに講師をお願いしました。

日本美術刀剣保存協会 刀剣等

指導員で同協会の石川県支部理事小浦宗五郎さんを講師に刀の手入れ方法を学びました。

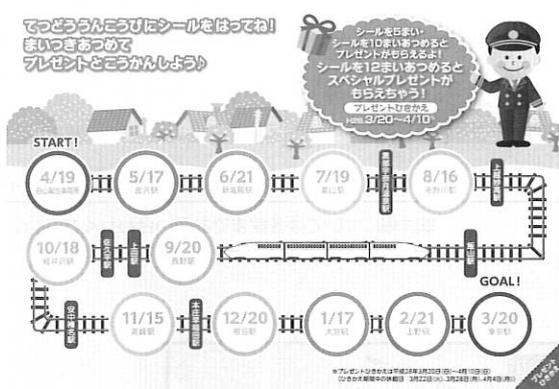
はじめに小浦さんに実演していただいた後、実際に刀剣を使用し、手入れ方法を学びました。

ていごこの広場

模型電車運行

毎月第3日曜日

毎月第3日曜日の家庭の日、市

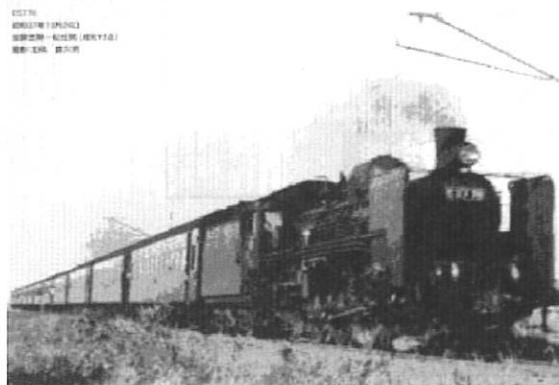


うんこうきっぷ

立博物館等の文化施設では、白山市民の方は入館料が無料になります。模型電車運行日(毎月第三日曜日)は10時から15時まで模型電車を運行しています。

また小学生以下のお子さんには、うんこうきっぷ(シール台紙)を配布しています。来場されたお子さんには毎月、異ったシールを配布します。

1年間で指定の枚数のシールを集めた方には粗品をさしあげますので、ご来館をお待ちしています。



白山市立博物館でのプレゼント用の絵はがき

北陸新幹線金沢開業記念
白山市文化施設
オリジナル絵はがき
プレゼント

3月14日(土)の北陸新幹線金沢開業記念の特別企画として、白山市の文化施設に入館された方にオリジナル絵はがきをプレゼントしています。期間は3月14日から1ヶ月間です。

配布施設は白山市立博物館、千代女の俳句館、松任中川一政記念美術館、石川ルーツ交流館です。

平成27年度 白山市の博物館・美術館 展示・行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
白山市立博物館 ☎275-8922	特別展「かがやきの北陸へ」 —北陸新幹線と北陸本線—		◆7/25ナイトミュージアム		◆8/5夏休みワークショップ		◆11/1.11/15 講座 奉納額の世界		◆古文書講座(2~3月)		◆刀剣製作見学	
千代女の里 俳句館 ☎276-0819	千代女館 蔵名品展 (前期)	千代女館 蔵名品展 (後期)	写真と俳句展		俵光一西のぼる俳画展一		俳句協会 会員展		千代女と一茶 ふるさと交流展		俳画の愉しみ展	
松任中川一政 記念美術館 ☎275-7532	北陸新幹線金沢開業記念 館蔵名品展(後期)		“出会い! 再会。中川一政” —新収蔵作品公開—		秋季テーマ展 「中川一政・絵画(え)と至言(ことば)」		冬季テーマ展 「中川一政の眼・代表作と珠玉の 一政コレクション」		春季テーマ展 「中川一政の薈薇 -新たな境地を求めて-」		第21回花を描こう絵画展	
石川ルーツ 交流館 ☎278-7111	白山市 巡回美術展		収蔵写真書道展		昭和大正写真展		ミニ展		◆4/5 篠笛コンサート		◆中旬 親子自然教室 7/19山の中節を楽しむ会 ◆親子絵画教室 ◆9/13 よし笛コンサート	
呉竹文庫 ☎278-6252	収蔵辞書展		企画展 (内容未定)		企画展 (内容未定)		企画展 (内容未定)		企画展 (内容未定)		◆下旬 オカリナ演奏会	
松任 ふるさと館 ☎276-5614	熱狂の日茶会		庭園ライトアップ セツ茶会 「七夕夜灯」		庭園ライトアップ 市民茶会 観月茶会 「月見夜灯」		雪見茶会		毎月、第1日曜日 あぐら茶会(1月、10月は休み) 第3日曜日 呈茶会			
鳥越一向一揆 歴史館 ☎254-8020	享禄の錯乱 超勝寺と加賀一向一揆		国指定史跡 30周年写真展								◆史跡指定30周年記念講演会 ◆歴史セミナー	

※詳細については各館までお問い合わせください。

